

所 沢 市 平和推進事業のまとめ

平成 2 6 年度

経営企画部企画総務課

所沢市平和都市宣言

武蔵野の緑豊かな自然のなかで、やすらぎに満ち、健康で生き生きとした日々を送ることが、私たち市民共通の願いです。

私たちは、国是の非核三原則を厳守し、戦争という過ちを繰り返さないことを願うとともに、限りある資源を大切にし、かけがえのない地球環境を守り、平和な世界が確立されることを強く望みます。

所沢市民は、基地全面返還を求め、未来に向かって平和な社会を築くことを誓い、ここに平和都市を宣言します。

平成2年6月22日議決、同年7月1日告示

目 次

広島平和記念式典参加事業	1
所沢市平和大使「広島平和記念式典参加」感想文	5
所沢市平和を語る会（語り部派遣事業）	12
所沢市平和祈念資料展	17
資料編	19
所沢市平和推進事業の歩み	20
広島市旧庁舎被爆敷石について	21



広島平和記念公園・原爆死没者慰霊碑

広島平和記念式典参加事業



原爆ドーム
(広島平和記念公園内)

《広島平和記念式典参加事業概要》

【 期間 】平成26年8月5日（火）～ 6日（水）

【参加者】市内在住の大学生1名、高校生1名、中学生3名
市議会代表2名、事務局2名
計9名

【 概要 】毎年8月6日に執り行われる「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式（広島平和記念式典）」に参加し、原爆死没者を追悼し、世界の恒久平和を願うものです。

さらに、広島市内の被爆施設や資料館への見学も行い、戦争の悲惨さや平和の尊さを実感する機会となっています。

市民代表の方が一緒に参加される現在の形になって今回で24回目となります。

また、平成19年度からは、市民代表者の対象者を中学生から大学生までの方としています。これは、戦後70年近くが経過し、唯一の被爆国であることを風化させないためにも、将来を担う若い世代の方が被爆地である広島に赴いて式典に参加し、実際に見て触れることで、原爆死没者への追悼や戦争の悲惨さ、平和の尊さを再認識していただくためです。

行 程

8月5日(火)

所沢市平和大使（市民代表）5名と市議会議員を含む参加者一行は、所沢駅で出発式を行い、新幹線にて広島へと向かった。

広島市到着後、平和大使らは、宿泊地近くの袋町小学校平和資料館を見学した。その後、平和記念公園を訪れ、原爆慰霊碑に市及び市議会の代表として生花を捧げ、原爆死没者の冥福を祈った。そして、平和記念資料館、原爆の子の像、原爆ドーム、被爆爆心地（島外科）の見学を実施し、初日の行程を終えた。

- 6 : 3 0 所沢駅集合
- 1 2 : 3 1 広島駅到着（新幹線にて）
- 1 5 : 1 0 平和記念公園へ
（献花、平和記念資料館や原爆ドーム等の見学）

8月6日(水)

式典当日は、早朝に宿泊場所を出発し、会場である平和記念公園に到着。

午前8時から「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」が開式され、原爆死没者の名簿の奉納、代表による献花の後、原爆投下時刻の午前8時15分、平和の鐘を合図に参列者全員で黙とうを行った。

次に広島市長による平和宣言、こども代表の誓いのことばと続き、安倍首相、国際連合事務総長(代理)などから挨拶があった。最後に会場では「ひろしま平和の歌」を合唱し、午前8時45分に閉会となった。

式典終了後、休憩をとり、帰路についた。

- 7 : 1 0 平和記念公園へ
- 8 : 0 0 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式開式
- 1 2 : 3 2 広島駅発（新幹線にて）
- 1 7 : 5 5 所沢駅着（解散）

なお、5ページから平和大使の皆さんの感想文を掲載させていただきました。

平和大使委嘱式



慰霊碑に献花



原爆ドームの前にて



「原爆の子の像」にて千羽鶴の奉納



式典の様子



平和大使感想文

(順不同)

平和記念式典に参加して

横田 大輝(大学3年生)

今回所沢の平和大使として広島を訪れましたが、今までの私は学校の教科書や戦争体験者のお話によって戦争の話を見たり聞いたりすることは数多くあっても、どうしてもそれが同じ日本でもどこか遠い国での出来事のように感じられてしまっていました。しかしこの企画を通して初めて日本で行われた「戦争」というものを感じたことができたように思えます。

初日の最初は袋町小学校の平和資料館を訪れました。ここは実際の小学校を利用して作られた資料館であり、当時校舎の中が原爆で焼けた後その黒く焼けた壁を黒板代わりにして家族を捜すためなどの「伝言板」として利用されていた跡が複数の箇所でありました。また被爆した展示も数多くあり、実際に手に触れることのできる被爆した鉄製のドアはよく見なければただ長い時間がたって錆びてしまっただけかのように見えるのですが、よく見るとその錆びている部分にはまるで内側から表面が沸騰したかのように泡立っていることがわかり、爆心地から450mほど離れた場所でもこのように大きな爪痕を残す原爆の威力のすさまじさを示しているように思えました。

そのあとに訪れた平和記念資料館は高校の修学旅行で1度見学したことがあったのですが、その時はスケジュールの都合であまりゆっくり見ることはできなかったのですが、今回はじっくり見ることができ良かったです。資料館では広島という場所が明治、大正、昭和という時間を経てどのような立ち位置であったのかということから始まり、なぜ広島に原子爆弾が投下されたのか、原子爆弾が投下されて広島がどのように変わったのか、原子爆弾が残した爪痕がどのようなものであるかということを知ることができた。また展示されている黒焦げた服、原子爆弾の熱によって溶けたガラスや陶器などをみて、被害にあった方々のことを考えるととても心が痛むと同時に自分たちが今平和に過ごすことができるのがこの人たちや当時の方々の犠牲によるものであり、そのことを深く胸に刻み込もうと改めて思いなおすことができました。

記念式典の方では記念資料館でも感じたのですが、内閣総理大臣やケネディ駐日大使をはじめとして日本人だけでなく外国の方々も多く見られ、またその参加者も私たちのような市区町村の代表やNPO団体や原爆の被害者の方がいて、この行事が日本だけでなく世界にとって大きな意味を持つ行事なのだと感じる

ことができました。当日は43年ぶりとなるあいにくの雨だということだったのですが、それでも大勢の人が参加し、行事に真剣に参加していました。

戦争が終わってから69年が経ち、戦争を経験した方々が年々減ってきているというこの現状。私たちにできることはその経験した方々からお話を聞き、それをさらに次の世代に伝えるという「語り部」の役割だと思います。たとえ戦争を経験していなくても、今私たちが平和に過ごせるのは誰のおかげなのか、どのような出来事があったのか、そのことは国内外を問わず永遠に語り継いでいく必要があるものだと思います。

平和記念式典参加事業を終えて

大山 穂乃華（高校1年生）

私は今回、所沢市の平和大使として、広島に行きました。

小学校の頃、授業で一度、被爆者の方から当時の話を聞いたことがありました。しかし、小学校の頃は、原爆というものがなにかもよくわからず、ただ、広島の人を苦しめたものだということしか理解できませんでした。

8月5日、広島駅に着いたときは、本当にここに原爆が落ちたのかと思うほど、発展していて、想像もできませんでした。しかし、最初に袋町小学校資料館へ行き、当時の資料や校内にある伝言板として使用されていた壁を見たとき、戦争の恐ろしさに鳥肌がたちました。

広島平和記念資料館では、原爆投下に至るまでや、原爆投下後、どれだけの犠牲が出たかなどの説明を読み、また、当時の映像、写真、現物などを見て、深く考えさせられました。映像や写真は、今の日本では考えられないほど残酷で、見ることですら恐怖に感じました。当時の広島の人たちは、どれだけの恐怖や不安があったのか、とても想像が付きません。一瞬にして、すべてを失ってしまう核兵器は、使うこと、作ることも許されないものなのだと思います。全身やけどを負った男性の写真や、原爆投下のその瞬間にコンクリートに座っていた人のあとがはっきりと黒く残っていることや、後障害に苦しむ被爆者の映像や写真などを見て、言葉では説明できないほどの重く深い何かを感じました。

8月6日、平和記念式典当日。43年ぶりの雨にもかかわらず、たくさんの方が参加していました。原爆を落とす際、天候の良い日に落とすためにたくさんの方の計算・調査をしたというアメリカ。当時は、天気予報などもなかったはずなのに、そこまで調査をするくらい、綿密に練られた計画だったのだと思いました。

雨の中始まった平和記念式典。原爆によって亡くなった方々の名前を記した死没者名簿が奉納されました。

8時15分。平和の鐘がなり黙祷。その時なった平和の鐘は、帰ってきた今でも、心の中に残っています。テレビでしか見たことのなかった式典に参加し、平和とは何か深く考える機会ができました。小学生による平和への誓いの中に、『当たり前であることが、平和なのだ』という言葉がありました。その言葉を聞き、私は当たり前のことをしっかりと行っていこうと思いました。

ひろしま平和の歌を式典で聞いたとき、初めて聞いた曲のはずなのに、ものすごく心に響いて残っています。

この二日間で、行く前よりも、戦争について、深くもっと考えなければいけないと思いました。また、行っただけ、見てただけではなく、この後も、忘

れずに、残していくことが大切なんだと感ずることができました。今回、平和記念式典参加事業に参加して、多くのことをゆっくりとたくさん学ぶことができ、これからの未来につなげていけたらいいと改めて思いました。

本当に参加させてもらえたことに感謝します。ありがとうございました。

西村 虎次郎（中学3年生）

昭和20年8月6日8時15分、広島に人類初めての原子爆弾が投下されてから69年。広島平和記念式典は、43年ぶりの雨の中行われた。

僕は前日の光景が目に焼きついていた。

袋町小学校では壁面に残された伝言や当時の様子が事細かに書かれた説明文を読んで、どれだけつらい状況だったのかを思い知らされた。

そして平和記念資料館。以前小さいころ家族と旅行に行ったときにも見学していた。8時15分で止まった時計や女学生の髪の毛、熱風によってひしゃげたガラスビン。いろいろある展示物の中でも一番印象に残ったのはやはり当時の被爆者の人形だった。皮膚は焼けただれ、いたるところから血が滲み出し、子供は泣き叫んでいる。思わず目を背けたくなるような光景だ。

だが決して目を背けてはならない。そう思った。小さかったころはただ恐ろしい、そのぐらいの感想しかもてなかった。でも今は、この悲惨な光景を目に焼きつけ、世界に向けて伝えなければならないと感じた。

広島平和記念式典では降りしきる雨の中、多くの人が参列していた。そして皆、広島市長や総理大臣などの言葉に耳を傾けていた。

僕は今回の事業を通じて、やはり原子爆弾は存在してはいけないものなのだと再認識した。唯一の被爆国日本。その日本に生まれたからには、我々は一発の原子爆弾によってどれだけの数の命が奪い去られるのか、そしてどれだけの人々が悲しみに包まれるのかを理解しなければならない。

これから僕は、この言葉とともに、世界恒久平和を訴えて行きたい。

- No more Hiroshima -

木下 康輔（中学2年生）

広島に着いて最初に思ったことは広島はとても発展しているということです。広島は69年前、1つの原子爆弾によって一瞬にして全ての物が跡形もないまでに破壊され、一瞬にして多くの人々が亡くなりました。奇跡的に生き残った人達も後の放射線の後遺症によって亡くなりました。

広島に着いて最初に行った袋町小学校に残された伝言が写っている写真がありました。その伝言が原子爆弾の悲惨さを物語っていました。それから鉄のドアや和太鼓が爆発の衝撃と熱風の凄さを物語っていました。広島平和記念資料館には原子爆弾が落とされた8時15分ちょうどで止まった、時計がありました。正直こんなことが実際にあったんだと驚きました。資料館にあった腕の皮膚が垂れた子供と大人の人形に僕はショックを受けました。

でも69年前に実際に被爆を受けた人達が垂れ下がる皮膚をかばって町を歩いていたと思うととても怖くなりました。

その後も資料館にはとてもショックを受ける物が沢山あり本当に怖かったです。

2日目の8月6日の朝、平和記念公園に向かう道は前日とは全く違う雰囲気です。少し緊張しました。8月6日朝8時式典が始まりました。今年は43年ぶりとなる雨の中の式典でした。

今年1年間で約5000人の被爆で亡くなった人がいるのに驚きました。

8時15分に平和の鐘が鳴り響き、僕は黙祷をしながら69年前のこの時間に原子爆弾が落とされ広島は破壊された、ということを見るととても悲しくなりました。

平和宣言などで戦争は絶対にしてはいけないと言うがそのためには核兵器を無くさなくてはならないと思いました。

そのためにも唯一の被爆国である日本が世界中に平和を発信しなければならぬと思いました。

僕は今回こういった貴重な体験をして改めて戦争の悲惨さを知ったのでこれからは戦争に反対という同じ思いを持つ仲間を増やし一歩ずつ平和へ近づけて行きたいと思いました。

宮原 怜音（中学1年生）

昭和20年8月6日午前8時15分、広島に原爆が投下された。

多くの人々が亡くなり、生き残ったわずかな人々も放射線によって被爆した。広島市全てがこの事を表していた。

平和記念資料館・原爆ドーム・平和記念式典が僕らに本当の「平和」を教えてくれた。

平和記念資料館。展示されている物はどれも生々しい物ばかりで、とてもじゃないけど見ていられない。しかし展示されている全てに「平和」という言葉が詰まっていたと思う。信じたくない過去を知らないといけない。そして二度とこの過ちをしてはいけないと。

原爆ドーム。その姿は苦しみの声を表しているようだった。壁はすごく焼けていて所々に被爆によって飛ばされたあとがある。ドーム型の屋根は鉄骨だけが残っていた。平和記念資料館とは違った生々しさがあった。原爆の怖さを改めて知った。そして、この世界から核兵器を無くさなければ、核兵器は必要ないと改めて思わせてくれた。

平和記念式典。43年ぶりに雨だった。8時15分、平和の鐘が日本に、いや世界に鳴りひびく。この時の黙祷はいつもと違っていた。69年前のこの日、この時間、この広島に原爆が落とされた。多くの人々が亡くなり、生き残ったわずかな人々も被爆した。苦しみの声が聞こえるようだった。広島市長、総理大臣、広島の小中学生の話は、雨にも負けない「平和」への強い想いが込められていた。そして、最後に『ひろしま平和の歌』の合唱。この歌で式典が終わる。この歌は「平和」への想いがとても詰まった歌。僕らに「平和」を語っていた。

広島は僕に教えてくれた。二度とこの過ちをしてはいけない。核兵器は必要ない。僕らが「平和」を築かなければならないと。僕にできることは小さなこと。でもこの「小さなこと」が集まれば「大きなこと」になる。だけど僕はこの「小さなこと」がまだわからない。だから「小さなこと」を見つけることから始めていこうと思う。「平和」を築いていく為に。

所沢市平和を語る会 (語り部派遣事業)



《平和を語る会（語り部派遣事業）実施概要》

【 概要 】

被爆体験者・戦争体験者の語り部による講話を市民の方に対して行い、平和の尊さ、命の大切さを訴えます。

市の施設で実施する場合は、市民の方を対象とし、小・中学校への派遣の場合は、児童・生徒を対象とした事業で、平和学習の一環として実施されています。

【 実施日 】

平成26年 7月 9日 宮前小学校 4年生
語り部：杉本孝一郎さん

8月16日 男女共同参画推進センターふらっと
語り部：中島寿々江さん

9月17日 所沢小学校 6年生
語り部：中島寿々江さん

9月19日 牛沼小学校 6年生
語り部：中島寿々江さん

9月30日 伸栄小学校 6年生
語り部：中島寿々江さん

10月24日 山口小学校 6年生
語り部：中島寿々江さん

11月11日 清進小学校 6年生
語り部：中島寿々江さん

11月12日 三ヶ島小学校 6年生
語り部：中島寿々江さん

1 1月22日 北秋津小学校 6年生
語り部：中島寿々江さん

1 1月27日 小手指小学校 6年生
語り部：中島寿々江さん

1 2月 4日 中央小学校 6年生
語り部：杉本孝一郎さん

1 2月 5日 椿峰小学校 6年生
語り部：中島寿々江さん

合計 12回開催 参加者数 1,103人

年度	実施回数	参加者数
平成20年度	14回	1,197人
平成21年度	12回	988人
平成22年度	12回	1,369人
平成23年度	12回	1,212人
平成24年度	12回	909人
平成25年度	12回	1,143人
平成26年度	12回	1,103人

講師紹介

なかしま すずえ
中島 寿々江さん

小学校6年生の時、広島市内の爆心地から500mの距離にある家（大手町）に祖母と生活していました。当時、ご両親は仕事で四国に住んでいましたが、四国が空襲の被害を受け、広島に戻ってきていました。

夏休みということで、原爆投下の数日前にたまたまご両親の住む家（3kmほど離れた大洲町）に移っていたため大事には至りませんでした。祖母や多くの親戚の方々を亡くされました。

被爆の体験をもとに当時の広島の様子や被爆当時の状況などから、戦争の悲惨さを訴えます。

今まで、被爆のことを人に話すことは避けていました。本当につらく、悲しい記憶だったものですから。しかし、私も歳を重ね多くの仲間がそうしているように、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを次世代に語り継ぐべきではないかと思うようになりました。

多くの方に原爆の話をする事、それが原爆に苦しめられた私の使命なのかもしれません。

語り部の活動を通して、話を聞いてくれた小学生の皆さんから励ましや健康を気遣うお手紙、平和に対する強い思いなどをお寄せいただき、私自身の励みとなり、これからも語り部を続けたいという確かな気持ちになりました。

すぎもと こういちろう
杉本 孝一郎さん（市内在住）

戦争が激しさを増した昭和20年2月、当時13歳のとき、艦載機からの機銃掃射の中、二人の幼い妹の手をとり、雪降る中を裸足で、必死で逃げました。その年の3月10日、一夜にして10万人もの尊い生命が失われた東京大空襲で自宅も焼失してしまいました。

東京大空襲などの話を中心として、現在と当時の様子の違いを伝えながら、平和の尊さと命の大切さを訴えます。

私は、平成17年に広島平和記念式典参加事業に所沢市民の代表として参加したことが、語り部を行うきっかけでした。広島の実相を知り、私にも戦争の悲惨さを語っていく使命があると一念発起したのです。

昭和20年当時、中学1年生だった私は、連日の空襲から逃れるため東京から新潟へ疎開したので、3月10日の東京大空襲からは難を逃れましたが、自宅や友人がどうなっているのか心配でした。

父と上京したときの東京は想像を絶するものでした。上野駅に降りて見た景色は死臭ただよう焼け野原で、戦争孤児といわれる親兄弟を亡くした子どもたちもたくさんいました。食べ物はもちろんのこと何もない時代でした。

何もない時代を生きた者から言わせていただければ、今は本当に恵まれており、全てに感謝して、命を大切に、そして平和が尊いということを実感してほしいと思います。未来は、若い世代の方がつくるものですから...

所沢市平和祈念資料展



《平和祈念資料展概要》

【概要】

市役所及び公民館において、市所有の広島・長崎の被爆関係パネル等を展示し、戦争の悲惨さ、平和の尊さの啓発をしました。

【開催期間および場所】

平成26年8月 1日～8月11日：市役所1階市民ホール

8月12日～8月18日：
男女共同参画推進センターふらっと

8月19日～8月26日：
松井まちづくりセンター
(松井公民館)

【展示内容】

《所沢市役所市民ホール》

- ・広島・長崎原爆写真パネル
- ・記録図書の間覧

《その他の施設》

- ・広島・長崎原爆写真パネル

資料編

所沢市平和推進事業の歩み

- 昭和59年 2月 広島市より原爆の熱線を浴びた広島市旧庁舎内の敷石が所沢市に寄贈される。
- 10月 市長ら一行が広島市を表敬訪問
- 昭和60年 8月 6日 市長・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 11月28日 所沢市広島原爆資料展を開催する。（中央公民館講堂）
- 11月30日 市制35周年記念事業として所沢市平和講演会を開催する。
- 昭和61年 8月 6日 市長・市議会・市代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 昭和62年 1月 新庁舎西口広場に広島市旧庁舎内の敷石を設置する。
- 8月 6日 市長・市議会・市代表らと市民代表が広島平和記念式典に参列する。
- 昭和63年 8月 6日 市長・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 平成 元年 8月 6日 助役・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 8月 9日 市長・市議会代表らが長崎平和祈念式典に参列する。
- 平成 2年 7月 1日 所沢市平和都市宣言制定（告示）
- 8月 6日 助役・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 8月 9日 市代表・市議会代表らが長崎平和祈念式典に参列する。
- 平成 3年 7月30日 市庁舎広告塔に懸垂幕を設置する。
- 8月 6日 市民・市議会・市代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 10月26日 第12回所沢市民フェスティバルに出展する。
- 平成 9年 11月13日 所沢市平和祈念絵画展「テレジンの子供たちが描いた絵」を開催する。（市庁舎）
- 平成17年 8月25日 所沢市平和祈念資料展を長崎市の全面協力を得て開催する。併せて長崎市からの「語り部」講話会を開催する。
- 平成18年 8月 8日 平和を語る会（語り部派遣事業）を開始する。
- 平成20年 2月28日 平和市長会議に加盟する。
- 平成21年 8月 6日 市長・市議会・市民代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 平成22年 8月 9日 市長が長崎平和祈念式典に参列する。

広島平和記念式典への参加については、昭和60年から毎年実施しております。

広島市旧庁舎被爆敷石について

昭和59年、当時の所沢市長が広島市との交流を深めていたことから、広島市から旧庁舎のまわりに敷きつめられてあった御影石でできた敷石が当市に恵贈されました。

所沢市では、新たな庁舎建設が始まろうとしていたことから、新しい所沢市庁舎西口玄関前の広場に「広島市旧庁舎被爆敷石」を設置いたしました。

この敷石については、市民からの要望により、毎年8月に献花・献水を行っています。また、この敷石のモニュメントには、以下の内容が刻まれております。

この石は、広島市に原子爆弾が投下されたときに、同市庁舎前の敷石としてあったものを本市の平和への限りない願いと世界平和の祈念のため、とくに広島市の御好意により、昭和59年2月に譲り受けたものです。次の言葉とともに...

No more Hiroshima



MEMO



所沢市イメージマスコット
トコロん

平成26年度 所沢市平和推進事業のまとめ

平成27年3月発行

編集・発行 所沢市経営企画部

企画総務課（基地対策室）

所沢市並木一丁目1番地の1

電話 04 - 2998 - 9033

E-mail a9033@city.tokorozawa.saitama.jp